

華中理工大学籃球隊(バスケットボールチーム)来学

交歓試合で交流を深める



試合終了後、全員で記念撮影

本学と学術協定を結んでいる中国の華中理工大学のバスケットボールチームが、交歓試合のため来日、本学体育館で二試合を行って、スポーツ面でも交流を深めた。

白熱した第一試合

団員は霍慧嫻副校長を代表に、教員五名、学生十名の総員十五名からなり、九月十日に上海港を出帆、九月十二日に大阪南港に到着した。本学からは小林学生部長、桑原学生部長補佐、鈴木庶務課長、渋谷学生課主任、倉島学生課員等が一行を出迎えた。

到着日早々から、松下電器株の技術館を見学し、翌日は日本の代表的古都である京都、奈良を観光、また、名古屋ではわが国一位の生産台数を誇る自動車メーカー、トヨタ自動車を見学した。その後、田子ノ浦からフェリーに乗り込み船より、楽しみにしていたという富士山を遠望し、九月十四日に東工学園下田寮に

見守るなか、公式審判員のホイッスルで開始された。中国側の選手十人は、バスケットボールの選手とはいえず、身長は180センチから190センチという大柄な体格揃い、一方日本工大バスケット部員も同等以上の身長で大型選手同士のぶつかりあいとなった。

第一試合(九月十九日)

日本工大	70
華中理工大	68

第二試合(九月二十日)

日本工大	88
華中理工大	76

大川学長一行
学術協定調印
のため訪中



調印する大川学長と黄学長

一行は九月三十日成田を出発、北京、洛陽を経て十月四日に武漢入りした。一行を出迎えたのは黄樹槐学長をはじめ姚宗幹副学長、雷国傑外事処長、また本年八月まで本学に特別研究員として滞在、その本学訪問が華中理工大学との学術協定のそもそものきっかけとなった黄一夫副教授らが出迎えた。歓迎行事などの

後、十月八日に大川陽康学長と黄樹槐学長との間で、和やかなうちに「学術交流に関する取り極め」の再調印がおこなわれた。

その後、一行は上海を経由して、十月十三日大阪国際空

港へ無事に着いた。この学術協定が再調印されたことで今後、研究協力、スポーツ交流のみならず、あらゆる方面での交流がますます盛んになることが期待される。

☆ ☆ ☆

■試験科目(工学部)

— A方式・B方式のいずれかを選択 —

志望学科	試験科目
機械工学科	A方式 数学—数学Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確立・統計(「統計的な推測」に関する部分は除く) 理科—物理(理科Ⅰの物理の関連分野を含む) 外国語—英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語ⅡB、英語ⅡC
	B方式 数学—数学Ⅰ、工業数理 専門—機械関係科目 外国語—英語Ⅰ、英語Ⅱ
電気電子工学科	A方式 数学—数学Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確立・統計(「統計的な推測」に関する部分は除く) 理科—物理(理科Ⅰの物理の関連分野を含む) 外国語—英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語ⅡB、英語ⅡC
	B方式 数学—数学Ⅰ、工業数理 専門—電気・電子関係科目 外国語—英語Ⅰ、英語Ⅱ
建築学科	A方式 数学—数学Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確立・統計(「統計的な推測」に関する部分は除く) 理科—物理(理科Ⅰの物理の関連分野を含む) 外国語—英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語ⅡB、英語ⅡC
	B方式 数学—数学Ⅰ、工業数理 専門—建築関係科目 外国語—英語Ⅰ、英語Ⅱ
システム工学科	A方式 数学—数学Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確立・統計(「統計的な推測」に関する部分は除く) 理科—物理(理科Ⅰの物理の関連分野を含む) 外国語—英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語ⅡB、英語ⅡC
	B方式 数学—数学Ⅰ、工業数理 専門—機械、電気・電子、情報技術関係科目のうち1科目選択 外国語—英語Ⅰ、英語Ⅱ

昭和64年度一般入学試験より

選抜方法を変更

〈受験生の多様性を的確に評価〉

■募集人員

工学部	
機械工学科	40名
電気電子工学科	40名
建築学科	40名
システム工学科	30名

■試験日程

試験日	2月15日
出願期間	1月10日～2月10日
合格発表	2月22日
入学手続締切	2月28日

■選考方法

学力検査および書類審査

本学は本年六月二十九日をもって創立二十一周年を迎えるべき二十一世紀に向けて新たな第一歩を踏み出した。そこで、昭和64年度一般入学試験から、受験生の多様性を的確に評価するフレキシブルな入試方法を採用した。これによって、普通科出身者、工業科出身者はA方式かB方式のいずれかの入試科目を選択し、受験することができ、詳細については左記の募集要項参照、または教務課入試係へ。

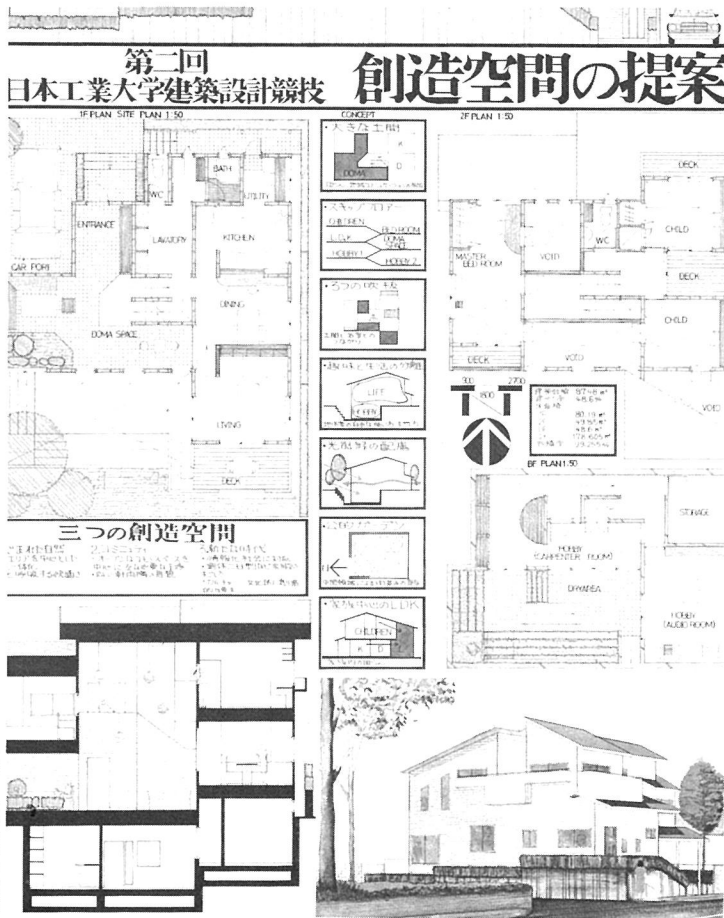
大学院工学研究科募集要項

	修士課程	博士課程(後期)
募集人員	機械工学専攻……8名 電気工学専攻……8名 建築学専攻……8名	機械工学専攻……2名 建築学専攻……2名
出願期間	2月21日～3月1日	2月21日～3月1日
試験日	3月8・9日	3月8日
合格発表	3月13日	3月13日

第二回 日本工業大学建築設計競技 入選者決定

昨年第一回が行われた建築設計競技は、本年も「都市近郊に建つ地下室をもつ住宅の設計」の課題のもと、八月三十一日応募作品の提出が締め切られた。

この設計競技は昨年、東工学園創立八十周年、日本工業大学創立二十周年を記念して設定されたもので、本年度の応募総数は約二百点に及んだ。作品は、本学の清家清教授、宮坂修吉教授、村口昌之教授によって審査され、大学祭期間中の十一月四日から六日まで本学会議室に展示された。作品の講評と受賞式は十一月六日に行われたが、今回の入選者のうち、大阪府立西野田工業高校定時制の石川誠一君、兵庫県立西宮工業高校の森口須美男君、関東第一高校の福島正和君、山崎徹君、青森県立弘前工業高校の増田志知子さんは昨年に続いて、二度目の入選となった。



1等 大矢雅祥君・森下剛紀君(静岡県立島田工業高校)の作品

講評

清家清

日本国憲法第二十五条によれば「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」とある。勿論、諸君の作品はこの条文に従って、その権利を主張している。応募者の諸君、これを教育、指導している教員諸氏、そしてそれを審査した私も審査員として決して贅沢三昧の生活を希求し、推奨していない。

ろいか。確かに治安のよいこと、衛生状態のよいことは世界最高といつてよからう。しかし、この第二十五条の後半にいう「国は、すべての生活部面について社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上」を推進するインフラストラクチャの増強に努力しているとは思えない。

三等入選の森口須美男君、子供室はご自身を想定してのことかも知れぬが、数年ならずして、不満が出てくるにちがいない。特に地下室の排水など基盤整備の遅れているこの国の一般的な解決法にはならぬ。

それに比べると一等入選の大矢雅祥・森下剛紀君は若干意欲には欠けているが、常識的な配慮がされ、減点がなかったといふことも知れぬ。いずれにしても入賞・入選作は勿論、惜敗の諸作、それ相当の力作であった。今後のご精進を祈るに切なるものがある。

(建築設計競技審査員)
(日本工業大学教授)

日本工業大学先端技術公開講座開催 テーマは「最近の先端加工技術」 後援 埼玉県・日刊工業新聞社

日本工業大学先端技術公開講座が、四回にわたって「最近の先端加工技術」と題して開催された。参加者は二百六名とこの種の公開講座としては、十分盛況といつてよい数であった。

開催の主旨に、日本は現在、「先端技術による産業立国の必要性を益々強めており、本学では「これまで蓄積された加工技術に関する研究開発成果を広く公表し、各産業分野の技術開発に活用されることを期待して、ここに公開講座を企画」したとあるように、本講座は極めて現在性をもった、時宜を得たものと言えるであろう。

講演は本学機械工学科およびシステム工学科の教員と招待講師により、研削加工、放電加工、塑性加工、複合材料などの加工技術を中心に熱心に行われた。

【講演題目および講師】

第一回 十月二十一日(金)
「ファインセラミックスおよび難加工材の研削加工技術」
○ファインセラミックスの高能率研削技術 植松哲太郎富山県技術短大教授
○メタルボンドダイヤモンド砥石の新しいソーリング法 鈴木清(本学システム工学科助教)

第二回 十月二十八日(金)
「金型表面仕上げの自動化技術」
○実験公開 セラミックスおよび各種難加工材の研削加工(鈴木 清研究室)

第三回 十一月四日(金)
「最近の塑性加工技術」
○厚鋼板の熱間シェーピング加工 村川正夫(本学機械工学科教授)

第四回 十一月十一日(金)
「金属繊維と複合材料」
○びり振動切削法による金属短繊維の製造と用途 鈴木清(本学助教)

○金属繊維の応用と通気性セラミックス型 柳沢 章(本学機械工学科助教)

○実験公開 複合材料用金属繊維の製造(柳沢 章研究室)



日本工業大学先端技術公開講座

「英語」は外国語ではありません

町山 忠弘

カリキュラムの上では英語は外国語とされています。確かに本来は英国の言葉であつたのですが、今日では可成世界共通の言葉になっています。とくに技術分野では、英語と云うよりも技術分野の(技術仲間の)技術語になっていると言つても過言ではありません。

例えば、種々の状態量、寸度等を表す場合のSI単位のようなものとして英語があると考えてみて下さい。単位

は各国に独自の慣用単位があります。わが国では尺貫法が使われておりました。今日でも土地の広さは坪(一間正方の広さ)がなお使われています。同様にフット・ポンドが常用されている国がなお少なくありません。また、MKS単位が多用されている国もあります。色々な単位が混在していると言つて可いと思つて下さい。単位は文化であるとも言えるのですから、一切SI単位に世界を統一することは不可能でしょう。

しかし、工学技術に関してSI単位を用いることによって、各国各様の単位系、文化的差異をのりこえて、共通の量表現ができます。少なくとも種々の単位をSI単位に換算することによって、工学技術に關するすべての人々に理解される量表現とすることができます。諸君もこのような換算には習熟している筈です。

この世界の工学技術上の共通単位SIのように、英語は共通用語になっております。日本語「尺貫法」では世界に、工学技術仲間、話をすることができません。もう英語を外国語と考えることは止めましょう。英語は技術者の言葉なのです。工学技術が、工業生産が、国境を超えて国際的と言つことさえもどかしい程になってしまった今日、英語を外国語として構えて学習することは誠に奇妙でさえあります。技術仲間の共通用語として、改めてその学習を考え直す必要があるようです。

(機械工学科教授)

地域開放講座 パーソナルコンピュータ入門 十一月一日より開催

本年も日本工業大学地域開放講座としてパーソナルコンピュータ入門が開催された。開催日程および時間は、十一月一日より来年一月十七日までの毎週火曜日、十四時から十七時まで。本学マイコン応用実習室で、合計十回の講義が予定されている。

これは開催の趣旨に「県民の生涯学習に寄せる期待と関心は、急速に高まっている。そこで、日本工業大学の専門的な教育機能を広く開放し、県民の学習要望に応えようとするものである」とあるように、我が国がこれからむかえようとする高齢化社会を背景に、

また、大学が地域社会に果たすべき役割という点から考えても、大変有意義なものと考えられる。

受講対象は十八才以上の県内在住または在勤者で募集人員九十名。講義内容の一部を紹介すると「パソコンとは、BASICの文法、グラフィック、ゲーム、統計計算、パソコン通信、等。講師は本学片山茂友、丹羽次郎両講師。



パソコン講座の開講式

石井治教授逝去

本学情報技術センター長の石井治教授が八月二十八日午後十時に永眠されました。五十八才という若さでした。ここに、謹んで哀悼の意を表するとともに、いつの時も温厚でお優しく、先生を偲んで、お二人の先生に思いをお書きいただきました。電気電子工学科主任教授の八田先生には日本工業大学でのおすがたを、また二十二年間にわたっておられた電子技術総合研究所（電総研）時代にご一緒にお仕事をする機会があった松田先生には、電総研時代の石井先生を、それぞれお願いいたしました。なお、本学発行の「青塔」第十四号に、遺稿となった「文明開化の窓（続）」が掲載されています。併せてご一読ください。



日本工業大学での石井先生

電気電子工学科主任教授

八田 達

石井先生が慶応義塾大学を卒業され、電気通信省電気通信研究所に入所された昭和二十七年の頃は、我が国は敗戦の深傷から何とか立ち直り、前途に曙光らしいものが見え始めた時期であった。しかし、国内の技術水準は外国のそれに較べ大きく立ち遅れ、特にコンピュータ、エレクトロニクス等の高度技術の分野では特に遅れていた。

このような環境の中にあつて、先生はコンピュータ専門家としての一筋道を歩み、この技術の開拓者の一人として将来の発展の基礎を固めたばかりでなく、これを世界最高の水準に引き上げるうえに多

また、本学に就任されてからも、コンピュータ技術の標準化に関する各種の委員会に引き続き関与され、特にIEC磁気ディスク標準委員会には、毎年、日本代表として出席されていた。

このように先生は高度の専門家であられた反面、極めて円満温厚なお人柄であり、組織の運営の面にも優れたバランス感覚を持ち、複雑な問題に当面した場合にも極めて弾力的な発想をされる方であつた。私などは学科主任の任にありながら硬直した考え方ができず、学科内の皆さん方に御迷惑ばかりお掛けしているが、このようなき、先生の御意見により目を開かれることが少なかつたことを感謝している。

また、先生は文学等情操面にも造詣が深く、奥行きのある方であつた。「青塔」の紙面上には毎号のように健筆を振つておられたことが懐かしく思い出される。

先生は今年の六月頃まではお元気に勤務され、諸会議にも出席されて活発な御意見を頂いていた。しかし、御自身では健康の不調を感じておられたらしく、七月上旬に検査のために入院された。やがて原因も解明され、治療の手段も確立し、秋には再びお元気に御勤務頂けるものと信じていたのに、事態は思いもよらずに急速に悪化してしまつた。葬儀は八月三十日にしめやかに行われたが、学界、官界、産業界からの多くの会葬者を通じて、生前の業績は如何に高く評価され、その突然の死が如何に惜まれていたかを改めてその感を深くした。

電子技術総合研究所の石井先生

電気電子工学科教授

松田 郁夫

石井教授が永眠され、早くも二か月の月日が経ちました。電子技術総合研究所時代の石井教授は研究者の先輩として、また研究仲間のリダーとして、熱く電子計算機の夢を語っておられました。特に酒が入りますと持ち前の「べらんめえ調」が飛び出し、話題は広がり楽しい時を過ごしたものでした。

石井教授が電総研（現電子技術総合研究所）の職員になられたのは、慶応義塾大学卒業（昭和二十七年三月）後、電気通信省電気通信研究所（現NTT電気通信研究所）での七年間の研究活動を経て、昭和三十四年四月からです。電総研（現電子技術総合研究所）における二十四年間（昭和三十四年四月から昭和五十八年四月まで）の研究活動の概要を述べ、石井教授の研究者としての思い出を偲ぶことにします。

昭和三十四年四月通産省工技院電気試験所に移られ、「エサキダイオードによる高速記憶装置の研究」に従事され、当時のフレイット磁心記憶装置の約十倍の動作速度を持つ記憶装置を開発された。これは電気試験所で試作した電子計算機ETLマークVIに組み込まれた。この研究成果は昭和三十七年の国際情報処理会議で報告され、この業績に対して稲田賞（電子通信学会）が授与されている。

研究体制の整備、ソフトウェアの基礎研究の充実発展に尽くされた。研究所の筑波移転後、昭和五十七年六月にパター情報部長になられ、大型プロジェクト「パターン情報処理システムの研究開発」のプロジェクトリーダーとして、プロジェクト全体を指導し、成功へと導かれました。

人事

□任用
(昭和六十三年五月十五日付)
渡辺 勝彦(わたなべ・かつひこ)



昭和十九年二月二十四日生。四十二年三月東京工業大学理工学部建築学科卒業。四十二年四月本学助手、四十七年四月講師、五十二年四月より五十七年四月まで助教。五十七年四月名古屋工業大学助教。工学博士（東京工業大学）。専攻は日本建築史。

□学科学主任（十月一日付）
◎機械工科学主任
玉木 保教授（たまき・たもつ） Ⅱ新任



◎システム工科学主任
長谷川 光教授（はせがわ・ひかる） Ⅱ再任



□任用（六月一日付）
横山 俊隆（よこやま・としか） 総務部庶務課



□昇任（十月一日付）
京野晴郎就職指導室主任
学生部就職課長に異動、昇任

藤田則夫教務課主任 学生部学生課長に異動、昇任

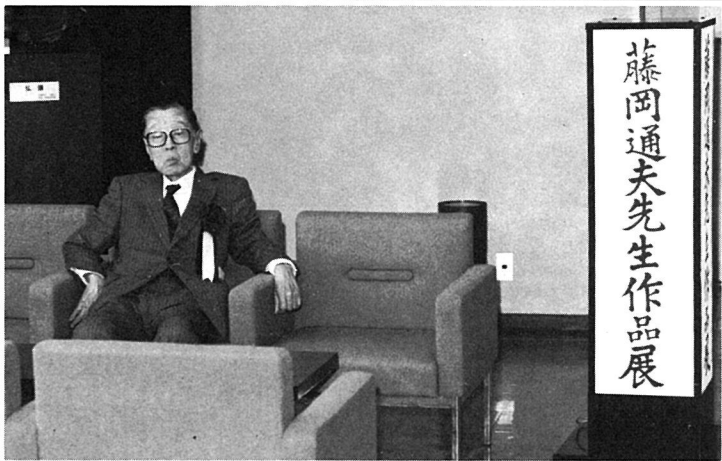


□配置換え（十月一日付）
松本義男学生課長 総務部資料室長に異動

藤岡通夫先生の作品展開催

油絵と主な著書

藤岡通夫先生の作品展が、十月二十三日から十一月十二日の十日間にわたって本学図書第二階ギャラリーで開催された。展示された作品は十八点の油絵と主な著書から成り、先生の彫大な業績と専門の枠組みを超えた多才な一面を、生地の絵を見た会場の人々の感



作品展会場でくつろぐ藤岡通夫先生

江刺家隆氏の絵画展開く

本学の卒業生で、画家の江刺家隆氏の絵画展が、本学同窓会の主催で十一月十三日から十九日までの期間、本学学生会館で開催された。



江刺家隆氏の力作（海女礼讃）



藤岡通夫先生の自画像

栗本 収用度課員 教務部 教務課に異動
倉島清隆学生課員 総務部 学生課に異動
赴任され、昭和四十八年三月より昭和五十二年三月まで本学学長として活躍された。昭和五十四年三月で停年、同時に本学名誉教授となる。多数の著者のうち、ここでは「近代建築史論集」の二点だけを、また作品については、小田原城と熊本城の復元だけを挙げておく。



フィールドトリップ

第5回カナダ短期留学 特別クラスでの実践的な英会話

団長 森 山 幹 郎 教養科講師

今回のカナダ短期留学は中々難しかったのですが、少しばかりお話をしたいと思います。留学の最大の目的は一般家庭に滞在しながら(いわゆるホーム・ステイ) UBC (ブリティッシュ・コロンビア大学) で英語の授業を受けると言う点にあるわけです。

まず、英語の授業の方から述べますが、極めて実践的というのが特徴でした。ホーム・ステイで使用する表現を習ったり、クラスの後キャンパスの外に出て実際に英語を使ってみるといった組合せになっていました。アメリカやカナダ、オーストラリアなどは移民の国ですから、英語教育も移民としてくる大人に対する英語教育が大きなウェイトを占めるわけで、すぐ日常生活に役立つものになるわけです。その意味で今回のUBCの受け入れ先も生涯教育センターの中の英語研究所というのがあるのかもしれないと思いましたが、つまり、外人労働者問題にぎやかな日本の将来を暗示しているような気がしたからです。

実際の授業ですが、会話中心で程度も日本工大生に合

せた特別クラスでした。美人の女性の先生と二人の助手が付きまわりました。助手は外に出る時の案内をするわけです。この助手の一人はイタリー系でやや小柄のとてもかわいい女性でした。彼女は学生諸君に大変な人気で盛んに一緒に写真を撮ってもらっていました。どうも、彼らは短期的に滞在するから現地に着いてから三日かかったのです。その間は大学の寮に泊まったのですが、これは外国に慣れるという意味ではかえって良かったかもしれない。なにしろ、英会話はからっきしという連中はかなりなでかなり神経質になっていたからです。各家庭から迎えの車がきて一緒に行くことでしたが、まるで子犬がもらわれて行くみたいだ」とある学生が言っていました。うまい事をいうものだと妙に感心したのを覚えています。また、受入先の家庭が必ずしも白人でなかったりした点で不満が残った学生がいたようです。滞在先の家庭から追い出されそうになった学生もいました。どうも日頃の素行が悪かったとみえて、ある時大変な剣幕で電話がかかってきました。なんとか切り抜けましたが、学生には良い薬になったと思います。

カナダでは様々なことがありました。白い帆のヨットが多数浮かぶバンクーバー湾の美しい光景を思いつつペンをおきたいと思っています。



和気あいの授業

感激したホームステイ

電気電子工学科三年 岩 瀬 昇

この度、七月三十一日から八月二十五日までの二十六日間わたるカナダでの特別英語研修とホームステイに参加した。

短い期間ではあったがカナダで生活してみても、日本と著しく違っていた点は、七月下旬から八月中旬までのカナダは、戸外が午後九時ころまで明るく、とても一日が長かったことだ。そのため、わたしたちはバンクーバー滞在中、非常にゆつたりと、またのんびりと過ごせた。

また、わたしたちが英語研修を受けたブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)は、おおくの学科を持つ総合大学で、博物館など沢山の付属施設が有り、短期の研修期間のなかではすべてを見てまわれない程だった。

ホームステイ先の家は四人家族で、両親の他十八才と十二才の兄弟がいた。彼らはUBCの学生で、その話によれば、カナダでは大学を卒業しても就職が難しく苦労しているとのことだった。また自分たちの学費は、全部アルバイトで払っていると話してくれた。そして、一番印象的だったのは電気製品は日本製が大変多いということだった。テレビ、プレーヤー、電子レンジなど皆日本製なのは驚いた。

ホストファミリーに関する思い出は沢山あるが、その中でも特に両親がとても親切で、大学までの道順や食事にごまごまと気を使ってくれたことが記憶に残っている。毎夕食には御飯が出、料理もとてもおいしく、母親が栄養士と聞



Ms. Nancy先生と

いて改めて納得した。さて、英語に関してだが、慣れればなんとかなるものでホームステイの最初のころは家族の会話がほとんど理解できず、聞き直してばかりいたが、状況を把握することと単語を並べることでどうにか意思を通じあわせることができた。また、バンクーバーのダウンタウンで映画を見たが、映画の英語は一方的だということもあって、ほとんど理解できなかった。

カナダは日本に比べて大変広い国なので日本と異なる点が多い。驚いたり興味をもったりしたことが色々あった。例えば、交通ひとつをとっても、道路は幅広くその割に信号はすばやく変わるのにまごつくといったことだ。しかし、歩行者優先の考え方はドライバースべてに行きわたっており、歩行者が横断歩道を渡ろうとすると必ずといってよいほど車は停止した。こんな風にして三週間のホ



修了式の一コマ



See you again.!

第十六回ヨーロッパ研修

異国の地を十二分に満喫

団長 正道寺 勉 システム工学科講師

「あつ、左にコンコルドが二機並んでます！」という現地ガイドさんの声に、「スゲー、カッコイイ」という歓声がわかれ一行を乗せたバスの中で沸きおこった。コンコルドが見れたのは大変ラッキーなことだそう、幸先の良いスタートだと心の中でつぶやくとともに、とうとうイギリスまでやって来たんだな、とこのとき実感した。

われわれ日本工業大学第十六回ヨーロッパ研修一行（学生十五名、添乗員一名、引率二名）の運命を託した英国航空〇〇六便が、無事ロンドン

ヒースロー空港に舞い降りたのは八月二十五日の早朝であった。イギリスを皮切りに、フランス、スペイン、イタリア、スイス、西ドイツの六カ国十二都市を十八日間で回るというハードスケジュールをこなすことになるのであるが、怪我人だけは出さず、最後まで脳裏を離れることはなかった。さて、今回参加した学生は十五名と比較的小人数ではあったが、それ故に小回りが利くという点では、欠点（？）といっても、当初計画されていたオプショナル・ツアーが二つ

しか成立しなかったことぐらいであるが、（？）を補って余りあるものであった。オプショナル・ツアーが成立しなかった分、自由行動が増え学生達は、皆それぞれに目的意識を持って、異国の地を十二分に満喫していた。中には、日本では絶対に経験できない貴重な体験をした学生も何人かいたようであったが、私の目にはとても頼もしく映った。

今回の旅行では、なるべく団体行動をするのは必要最小限にしよう（実際ヨーロッパでは、多くの日本人団体に会ってあり、ああいうのだ

けはやめようと誓ったものがある、というスローガンの下に各自思い思いに旅を楽しむのがもう一つの目的であった。この点に関しては、学生達のセンスの良さも手伝って大成功を収めることができたのは望外の喜びであった。

ロンドンの町並みはさすがにかつての大英帝国の面影を今も残しており、重厚な感じを受けた。現在でも、あちこちで古い建物を修理（因みに、ガイドさんによれば新しく立て直す場合に比べて三倍の経費がかかること）しており、かたくなに古き良き時代の建造物を保存しようという心意気は、日本も学ぶべきだと痛感した。

バッキンガム宮殿での衛兵交代（奇数日のみ行われる）では、洗練された美しさを感じ、ウエストミンスター寺院、ビッグベン、ロンドン塔、大英博物館では荘厳さを感じたものである。パリもロンドンと同じように古き良き時代と現代が程よくマッチしていた。また、町の中心部を大きな川が流れているという共通点も

さることながら、十代の子供（？）達の美しさは目を見張るばかりで、他の国を遙かに凌いでいた。

一方、旅の楽しみ方は人それぞれであるが、その土地の名物に接することは、重要なファクターであることは、誰もが異存がないであろう。そこで、南ヨーロッパ（スペイン、イタリア）の明るい太陽の下では、オルチャータ、サングリア、ワイン、パエリア、パスタそしてバレンシア・オレンジに舌鼓を打った。

四年後にオリンピックが開催されるスペイン第二の都市バルセロナでは、モンジョイの丘の近くで既に工事が開始されていた。カタルーニャ地方の首都であるバルセロナには、ピカソ美術館（ピカソが青年時代を過ごした家、天才建築家ガウディの作品サグラーダ・ファミリア（聖家族教会）、それにカタルーニャ風ゴシックの代表建築カテドラルなど観光には事欠かない。また、この後夜行列車でスイスに

向かい、ユングフラウ・ヨッホからアルプスの一大パノラマを見たが、そのスケールの大きさに驚かされた。西ドイツのノイシュバン・シュタイン城はディズニーの城のモデルになっただけあり、とても美しい城であった。筆舌に尽くし難いという表現は、正にこの旅のために用意されていたのではないかと考えた。

明朝成田に着くというその夜、ロンドンで予定外の一滴を強いられたという不運（見方によっては幸運？）に見舞われたものの、幸いにして全日程を通じて天候に恵まれた。天候に恵まれただけでも、今回の研修が意義のあるものになったが、それにもまして全員無事に帰国できたことは、団長として何にも代え難い大きな喜びであった。もちろん副団長の福沢さんも、同じ思いであることに変わりがある筈はない。

最後に、このような素晴らしいチャンスを与えて下さった大学に対して、心から感謝を申し述べる次第である。



サンマルコ広場に



ポルシェ博物館

この度、八月二十四日から九月十日までの約三週間、大学のヨーロッパ研修ツアーに参加しました。一生のうちに一度は外国へ行ってみたいと思っていたわたしは、この研修ツアーは自分の希望に合致した、正に渡りに船というべき企画でした。

わたし自身の今回の旅の目的は、ヨーロッパにおける『石の文化』というものに直接触れてみたいということでした。歴史が古いヨーロッパの町は訪れたところはどこでも、何百年も前の建物が実際に使用されており古い建物は壊さず

興味深い『石の文化』
建築学科三年 藤野 茂 行

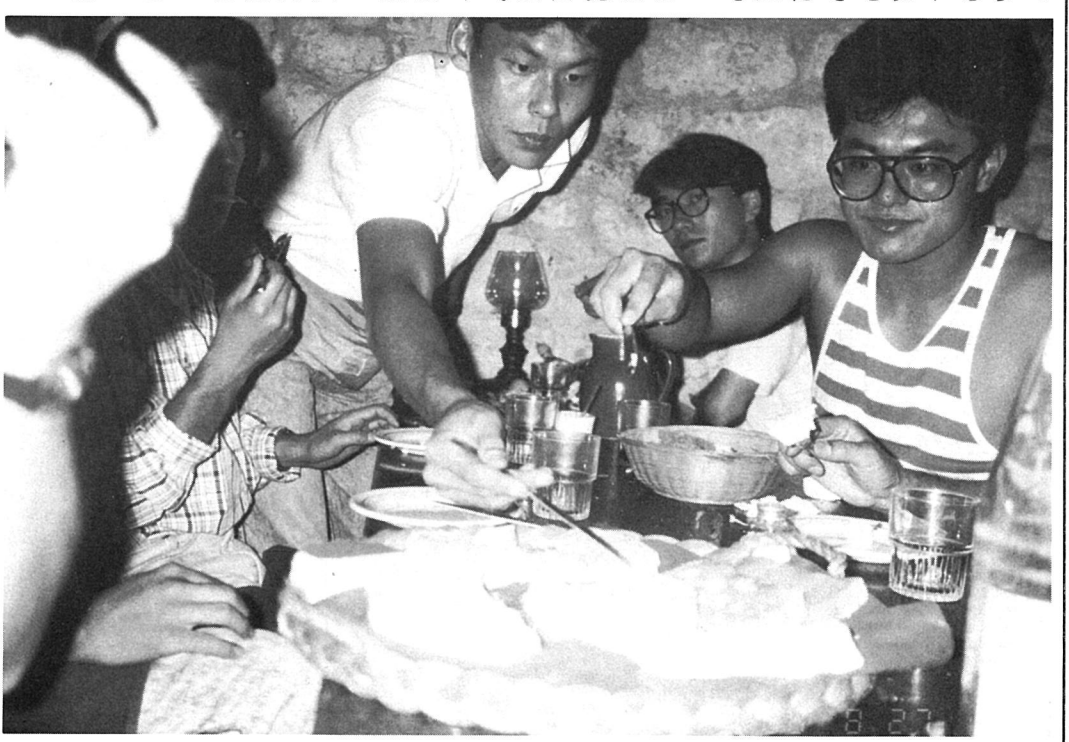
に補修する工事がいたるところで見られました。ヨーロッパにおけるひとびとの建物や町に対する考えかたは、非常に興味深く、建築を専攻しているわたしにとっては大いに学ばなければならぬ点でした。

旅行の期間中には色々なことが体験できました。その中でも最も苦労したのは、やはり言葉に関するものでした。日本で約八年間学んだはずの英語は、あまり役に立ちません。道を尋ねるにしても、慣れない英語で四苦八苦したあけく相手の言うこ



トレヴィの泉にて

とが聞きとれず、自分の勉強不足を痛感しました。しかし、日がたつにつれてコツを覚え始めるのと知らない町でもひとりで行けるようになり、また、英語をうまく話せなくても相手に自分の意思を伝えられるようになりました。また、今回の旅には幾つかのハプニングがありました。最終日、帰国の途につこうとしていたわたしたちに、「飛行機が飛ばない」という情報もたらされました。飛行機を待つためロンドンで丸一日を過ごし、わたしたちのスーツケースはその後二日遅れで日本へ送られて来るという思いがけないこともありました。こんな事件も、今から思えば貴重な経験のひとつであったと思います。今回のヨーロッパ研修ツアー



レストラン(パリ)にて

超電導技術研究室

技術の大きな流れを、見きわめることである。以前は、森は、いつもの森であった。しかし、今日では、今日の森は明後日の森ではない。だからこそ、常に見なおしすることが要求されている。しかし、この森は、今日きわめて複雑なシステムで、研究の中でも、最もレベルの高い部門に属している。

手始めに、昨年は、本研究室がシステム工学科に属しているの、システム工学とは

システム工学は、システムエンジニアリング（SE）ともいわれ、新聞などでは、狭義に解釈され「システムにコンピュータを導入して、システムをより有機化して、合理化する工学」と考えられているようである。このSE関係の技術者は、今日の日本の産業界で大変不足している。

ところで、ものの本によると、本来のSEは、米国のアポロ計画の推進の中で、最も活躍したといわれているが、

(教授・野口卓也)

電気加工学会倉藤賞

A black and white portrait of a middle-aged man with dark, slightly messy hair. He is wearing a dark suit jacket, a white shirt, and a striped tie. He has a neutral expression and is looking directly at the camera. The background is a plain, light color.

〔新規分〕

大久保勝弘

☆パラメータを含む非線形微分方程式	高橋 碩一	☆☆光フアイバ水素センサの研究	石田之則
☆光電離による負イオンプラズマの生成	塚林 功	☆紫外線照射を用いた CO 雰囲気中での CO の熱酸化による薄い酸化膜の作製	石川 豊
☆液体ヘリウムの超流動状態の ground state の性質について	鈴木一良	☆☆光記録取り方式の研究	廣瀬治男

☆精密塑性加工に関する研究	☆日光東照宮の彫刻に関する調査研究
☆脊柱手術シミュレーション・システムの開発	☆銘文と年代記によるネパール建築の文献的研究
☆超高速電気駆動接触現象	渡辺勝彦
村川正夫	吉岡 丹
玉木 保	

ここで何が理想と

63年度予算

◇教育研究經費

第二十一期決算・第二十一期予算が公認会計士および法人監事の監査を受け、法人理事会・評議員会で承認決定されました。ここに財務諸表を公表して、関係各位のご理解とご協力をお願い致す次第です。

六十二年度は本学園の創立八十周年・大学設立二十周年の記念すべき年であり、記念

予算について

大学創立二十周年を経過し、完成された大学として、また他に類をみない七年間工業塾育を受けた高級技術者を育成し、大学院を擁する大学として、科学技術の発展に寄与する研究体制の確立を目指して、予算が編成されました。

決算について

年度内の、すべての収支を表示する資金収支計算書と期末におけるすべての資産と負債の状況を示す貸借対照表を公表しました。

昭和62年度資金収支計算書

収入の部		金額	支出の部		金額
学生納付金収入		3,088,053,500	人件費支出		1,747,152,274
授業料収入	1,894,975,500		教育研究費支出		618,389,482
実験研究費	184,000,000		施設関係支出		280,728,884
施設設備拡充費	261,259,000		設備関係支出		569,017,664
手数料収入	747,819,000		管理経費支出		153,751,414
寄付金収入	39,186,600		借入金等利息支出		85,796,020
国庫補助金収入	244,482,725		借入金返済支出		86,590,000
国庫補助金収入	600,493,000		その他の支出		318,812,831
資産運用収入	160,390,829		未払金	25,906,480	
資産売却収入	5,390,000		特定預金繰入	73,727,860	
事業収入	2,738,460		その他の	219,178,491	
雑収入	77,115,981		資金支出調整勘定		△26,341,457
雑費前受金収入	1,220,517,100		次期繰越資金		2,419,847,156
未収金収入	80,420,630				
その他の収入	74,102,135				
資金収入調整勘定	△1,075,308,850	△1,123,877,396			
学費前受金控除	△48,568,546				
未収金控除					
前期繰越資金		1,784,730,704			
収入の部合計		6,253,744,268	支出の部合計		6,253,744,268

貸借対照表

昭和63年 3 月31日現在

科 目		金 額	科 目		金 額
資産の部			負債の部		
固定資産		7,992,594,872	固定負債		1,921,388,193
土地	932,284,451		長期借入金	1,176,150,000	
建物	3,115,287,184		退職給与引当金	745,238,193	
構築物	341,001,238				
構築物	2,979,843,242		流動負債		1,407,652,554
教研用機器備品	43,491,080		短期借入金	91,920,000	
その他機器備品	573,012,131		支払金	26,341,457	
図書	7,675,546		前受金	1,220,517,100	
車輜			預り金	68,873,997	
その他の固定資産		2,196,825,510			
電話加入権	1,282,394		基本金の部		
有価証券	54,990,000				
退職給与引当特定資産	470,164,757		基本金		10,952,192,864
育英基金 〃	206,420,934				
建設 〃	1,140,760,000		消費費収差額の部		
基本金 〃	221,215,932				
国際交流資金 〃	21,478,793		消費費支出超過額		△1,611,859,982
減価償却 〃	80,000,000				
その他の固定資産	512,700				
流動資産		2,479,953,247			
現金	2,419,847,156				
預金	48,568,546				
未収金	11,537,545				
仮払金					
合 計		12,669,373,629	合 計		12,669,373,629

昭和63年度資金収支予算書

収入の部		金額	支出の部		金額
学生納付金収入		3,207,486,000	人件費支出		1,729,669,850
授業料収入	1,992,248,000		教育研究費支出		702,885,489
実験研究費	198,000,000		施設関係支出		88,000,000
施設設備拡充費	281,067,000		設備関係支出		592,006,240
手数料収入	736,171,000		管理経費支出		147,500,000
寄附金収入	38,900,000		借入金等利息支出		85,733,000
国庫補助金収入	62,930,000		借入金返済支出		91,920,000
財産運用収入	452,020,000		その他の支出		295,209,454
資産売却収入	125,000,000		未払金	26,341,457	
	2,500,000		特定預金繰入	20,000,000	
			預りの金	68,873,997	
			予備費	179,994,000	85,000,000
雑収入	13,073,000		次期繰越資金		2,598,421,114
学費前受金収入	1,255,000,000				
未収金収入	47,873,546				
その他の収入	12,232,545				
資金収入調整勘定		△1,220,517,100			
学費前受金控除					
前期繰越資金		2,419,847,156			
収入の部合計		6,416,345,147	支出の部合計		6,416,345,147